

## 生活文化産業学

(第 1・3 木曜日 午後 14 時～／成徳学舎)

2011 年度後期 第 8 回 ケーススタディ 6／地域ゆかりの偉人と地域資源

担当：大倉 朗寛

～講義の流れ～

1. はじめに／地域資源の発掘について (14:00～／30分)
2. 地域ゆかりの偉人と地域資源 (14:30～／30分)
3. 地域資源の発掘と生活文化産業 (15:00～／30分)
4. 【情報共有】地域資源、まちづくり、商店街、街道、景観 (15:30～／10分)
5. ディスカッション、まとめ (15:40～／20分)

～内容～

1. はじめに／地域資源の発掘について (14:00～／30分)
  - ・地域資源を発掘する 3 つの時間的視点
    1. 過去からの視点
      - ・情報＝歴史秘話、言い伝え、
      - ・ヒト＝偉人、創業者、創設者、創立者、創始者、
      - ・モノ＝伝統工芸品、歴史的建造物、街道、商店街、
    2. 現在からの視点
      - ・情報＝地図、画像、動画、
      - ・ヒト＝第一人者、地域リーダー、オピニオンリーダー、オーソリティ、
      - ・モノ＝特産品、景観、自然 (森林、水、風、太陽光、地熱など)、
    3. 未来からの視点
      - ・情報＝永続的なデータ保存、
      - ・ヒト＝次世代の担い手、人財育成、
      - ・モノ＝再生、復興、
- ・地域資源を発掘する 3 つの時間的視点からみた空間 (地域)
  1. 過去／生まれ育った地域
  2. 現在／現住している地域
  3. 未来／第 2 のふるさと地域

## 2. 地域ゆかりの偉人と地域資源（14：30～／30分）

各地域に固有の文化資源である地域資源を発掘しようとするとき、その地域にゆかりのある偉人の存在と活躍を無視することはできない。その地域の歴史を紐解いてゆく過程でその地域の発展に尽力した偉人に必ず出会うことになり、その偉人の想いや志を引き継ぎ、それぞれの時代や環境に適した手法を用いて、次の新たな時代を開拓してゆくことになる。

私の場合、我が国の近代化において歴史的に大きく変動したのが、明治維新と敗戦後の復興と考えて色々と調べていたところ、山岡鉄舟という人物にたどり着いた。明治維新のハイライトといわれる江戸城無血開城を、水面下の交渉で成功に導き、江戸の町と民衆を戦火から救った明治維新の真の功労者である。剣・禅・書という3つの道を究めた求道者としても知られ、政治家や経営者など、その生き方に感銘を受けるファンは少なくない。

昨年3月に東日本大震災が発生し、我が国の近代化における第3の変動が起こっている最中であるが、もし現在の我が国に山岡鉄舟のような偉人がいれば、どのように活動したのでしょうか。当時と同じように多くの人知らないところで夜も徹して活動し、例えば極めて危険性の高い状況に置かれていた原子力発電所を緊急停止するなど、文字どおり、名もいらず命もいらずの精神で、我が国の存続と再起を願って愚直に活動したに違いない。あるいは被災者の救援や失業者の雇用の受け皿となる新たな産業の創出に東奔西走して、自らは極貧生活を送りながらも復興を推進するための仕組みを考えていたに違いない。

そういった精神を引き継いだ鉄門と呼ばれる山岡鉄舟の門下生の中に、北垣国道という人物がいた。その後、北垣国道は京都府知事を務めて琵琶湖疏水を完成させ、明治中期の京都に国内初の水力発電所を造り、我が国で推進されつつあった近代化の中でもいち早く、エネルギーを地産地消することの重要性に着目していた。同じ門下生に、滋賀県知事を務めた籠手田安定という人物もいた。千葉道場で修業していた渋沢栄一も尊皇攘夷に目覚め、我が国における資本主義の父と呼ばれる活躍をした。先人が残した足跡にこそ、次の時代を切り開いてゆく原動力や源泉が残され、特に地方都市の地域社会に蓄積されている。

明治維新や戦後の復興における資源は、エネルギーを生産するための石油や石炭など、いわゆる鉱物資源を意味していたが、第3の変動が起こっている最中の我が国においては、貴重な資源という意味合いが変わってきていることを強く実感する。情報やカネが世界を瞬時に駆け巡る昨今の経済情勢において、特に地域資源に対する注目が高まってきており、それがまさしく世界中探しても他の地域に存在しない貴重な資源、さらには新たな産業を形成する源泉として各地域において発掘され、有効に活用されている。その地域資源は、自然の力や地理的条件、気候などによって偶然に形成されたモノやコト以外に、各地域にゆかりのある偉人によって形成された事例も意外に少なくないことに気付く。

明治6年の政変以降、我が国は富国強兵・殖産興業という方向へ邁進し、敗戦後の復興における高度経済成長を経て、輸出一辺倒という極めて不安定な産業構造を形成する状況に至った。第3の変動が起こっている最中の我が国において、もう一つの大きな方向性に向かって邁進し、2本目、3本目の軸足を国土に根付かせる活動が、いま求められている。

### 3. 地域資源の発掘と生活文化産業（15：00～／30分）

地域資源を発掘する活動は、生活文化産業を形成する活動そのものである。なぜならば、地域住民から理解を得てネットワークを形成し、情報や技術、資金などの協力が得られないことには継続できないのが、地域資源を発掘する活動と考えられるからである。

地域住民同志のネットワークを形成する過程において、衣・食・住という生活必需品を利用または消費し、知・働・集という付加価値を付けて相互に交換することが、まさしく経済活動そのもので、その経済活動が円滑に促進されて生活文化産業が形成されてゆく。

高度な技術を新しく開発して、その成果や名誉を争い合うよりも、余ほど健全に地域内で協力し合うことができ、その協力関係によって形成された情報共有ネットワークを基盤として、ヒト・モノ・カネの循環が促進される。その際、庶民金融の仕組みを利用したり、最近では市民ファンドなど、市民自ら金融ネットワークを形成して経済的に自立し、自ら活動を推進してゆくスタイルが、生活文化産業を形成する基本的なモデルとなりつつある。

また、地域資源は、その資源そのものを分析しても価値があるのかどうか分かりにくい。しかしながら、各地域を訪ねたり、インターネットで調べても見つからず苦勞することで、その苦勞に相当する価値が初めて分かり、地域資源の価値と考えることができる。

また、地域資源を発掘する際に、最も重要なことは、まず「情報」のやりとりがあつて「ヒト」と「ヒト」とがつながり、そこに「カネ」が集まつて「モノ」が作られ、そして売り買いされるというフローが存在するということである。逆に、そのフローが崩れると一時的にうまくいっているように見えても、地域資源を発掘する活動は停止してしまう。

前期で、ハードウェアとソフトウェアについてまとめ、その上で、情報の発信から管理、収集と生活文化産業における情報の取り扱いの重要性を解説させて頂いた。その情報は、たとえばインターネットを介してメールやホームページ、最近ではフェイスブックなど、ソーシャルメディアが用いられて「ヒト」と「ヒト」とがつながり、皆で「カネ」を出し合つて、あるいは投資家が「カネ」を投じて「モノ」を作つて売る。そのフローの繰返しを早く回転させ、何本も増やしてゆくことが生活文化産業を形成してゆくことになる。

生活文化産業を形成するプロセスやモデルについて正解は一つではない。様々な事例を探求し、それらの相互の交流や学習、融合によって顧客や市場のニーズに対して柔軟かつ迅速に対応しながら、新たな価値（商品や技術、サービスなど）を創出し続けることが、生活文化産業の面白さであり、その多様さが、いま注目される最大の要因であると感じる。

現代に生きる私たちの知識や技術を用いても、とても真似できない様な高い技術で形成された地域資源も数多く存在する。高度な新技術や商品を生み出すよりも、先人が築いてきた地域資源を活用した方が、より実用的で、各地域で伝承されてきた生活文化と相性もよく、結果として生活文化産業を形成してゆく近道になると考えられる。

先人が築いてきた地域資源を発掘し、生活文化産業を形成する担い手として、一人でも多くの人財が各地域において活躍されることを期待して、地域リーダーが担うべき役割と必須ツールについて取り上げさせて頂き、2011年の締め括りとさせて頂くことにする。

4. 【情報共有】地域資源、まちづくり、商店街、街道、景観（15：30～／10分）

- ・ [生活文化産業学 | 市民大学院（文化政策・まちづくり大学校）](http://bunka-seisaku.org/sbsg2011.html)  
<http://bunka-seisaku.org/sbsg2011.html>

5. ディスカッション、まとめ（15：40～／20分）